

# ういねっと

Wakayama environmentalists NET work

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター



第32号

ひまわり  
キク科

2014年7月17日

## 「わが家の節電 なるほど&おもしろエピソード集」

昨年実施した、わかやま「節電所」建設プロジェクト2013の受賞者エピソードを一気にご紹介します。これをヒントに応募して、今年はぜひ賞品を当てましょう!

去年初めてのゴーヤ作りがうまくいかず、ご近所の方のアドバイスで、立派なきゅうりとゴーヤのグリーンカーテンができた。エコを通じてご近所さんとも良いつながりができた。  
和歌山市 T.K さま

できるかぎりエアコンをつかわずに窓を開け風通しを良くし、子供と一緒に朝夕の鳥やカエル、虫の声を楽しみながら節電しています。  
紀の川市 M.I さま

\*早い時間におフロに入る。  
\*照明を付けない。ローソクを使うと子どもが大喜び。  
\*1年前のライバルには勝てなかった。  
和歌山市 O.M さま

\*30年使っていたエアコンが壊れ新しく1台を家族で共有した。  
\*夕方はき出し窓に水をかけさまし雨戸を閉め外から水をかける  
海南市 T.R さま

特にやった事はなく、昨年より家族が増えたにも関わらず、消費が少なかったのが驚いた。やはり”こまめに”が意外にもキーワードかもしれない  
和歌山市 N.I さま

\*早寝早起きをし、ラジオ体操に参加で体力作りをした。  
\*花の水やりや食事の用意も朝夕の涼いうちに。  
\*暑い昼間はスーパーでゆっくり買い物をし、色々節電に工夫しました。  
和歌山市 T.K さま

\*電気温水器からエコキュートに変えてびっくりするほど電気の使用量が激変した。  
和歌山市 SK さま

\*たてすをかけ、窓をあけ風通しをよくする  
\*夕方打ち水をする  
\*冷房は28℃「おまかせ」に  
\*電気はこまめに切る  
和歌山市 D.N さま

\*夜、家族全員が同じ部屋で寝るようにクーラーは1台稼働。  
\*「あつい」と言う言葉を出さないように家族で心がけて夏をのりきった  
和歌山市 I.C さま

主人(暑がり)の定位置をクーラーの風の通る場所に変えた。設定温度が26度から28度に上がり節電に。私も寒がらずにすみー石二鳥。  
岩出市 K.K 様

\*はき出し窓を二重サッシに  
\*出窓を真空ガラスに  
\*冷蔵庫を省エネタイプに買い替えた  
岩出市 M.Y さま

\*夜は1人に1つアイスマクラを使った  
\*家族で節電への意識、こまめに電気を消す  
岩出市 T.M さま

\*そうじ機の使用を控え、ほうき&ぞうきがけをした。  
\*洗たく物が少ない日は手洗いに。  
橋本市 T.T さま

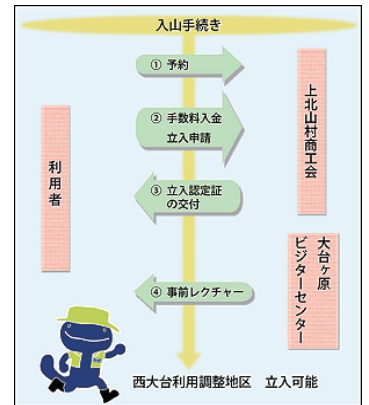
# 紀伊の 原生環境を 全身で体感

## 奈良県吉野郡の西大台と 吉野川（紀の川）水源地の森 観察研修

5月末の週末、事務所をシェアしている、わかやま環境ネットワークと和歌山有機認証協会スタッフの共同研修として、西大台と三之公川源流域の森で自然観察を行いました。二つとも紀伊半島ではトップクラスの原生自然が残る地域であり、自然環境に関心があるならぜひ訪れたいところ。以下、簡単に概要を紹介します。

西大台は吉野熊野国立公園に属する大台ヶ原のうちでも、広大なブナの天然林など静寂で原始的な雰囲気が残る山域で、この貴重な自然環境を害することがないように日本で最初に利用調整地区に指定され、一日の利用者数が平日30人等と厳しく制限されています。

利用手続きの流れは、①インターネット等で上北山村商工会に事前予約⇒②立入申込書と手数料の払い込み⇒③立入認定証の受け取り⇒④大台ヶ原ビジターセンターで事前レクチャー受講⇒⑤受講証明付き立入認定証を受け取り、それを明示してゲートでチェックを受けてようやく西大台入域…と、なかなか面倒です。（右図参照）



吉野熊野国立公園 大台ヶ原サイトより



一方、三之公天然林は大台ヶ原北西側の標高480～1,050mの帯で紀ノ川の源流域にあたり、吉野林業発祥の地にありながら種々の理由で植林を逃れた原始的な天然林が広く残されていることから、奈良県川上村が「水源地の森」として740ヘクタールを買い取り、生態系の調査を進める一方、人の立ち入りを制限するなどして保護。手続きは西大台ほど複雑ではありませんが無断で入山することは禁じられていて、「水と森の源流館」が主催するツアーに参加しなければなりません。

私たちのために特別に組んでいただいたツアーでは、山腹を縫う登山道を同館のガイドに導かれてゆっくりたどりながら三之公川源流部の入り口までを往復て、樹木や森林生態系についてのレクチャーを受けました。

道中、大台に比べはるかに標高が低い一帯は滴（したた）るような新緑で、トチノキやシオジの巨木がそそり立ち、目の高さにはモチツツジ、さらに足元にはフタリシズカが花をつけていました。また、天然記念物のトガサワラもしっかり観察できました。トガサワラはこの付近と高知県東部にのみ分布する日本固有のマツ科針葉樹で、全国にわずか千本しか残っていない絶滅危惧種です。道端には樹高15cmほどの稚樹も見られました。健やかに育てとせずにはられません。

さて、以上の関門をクリアして入った西大台。季節により表情は多彩ですがこの時期、標高1400mの高地では新緑にはなお早く、ブナやオオイタヤマメイゲツなどのカエデ類、ナナカマド、ウラジロモミなど亜高山帯に特徴的な樹種の若葉が芽生えただけでした。

かくして穏やかな陽光が射すどこまでも明るい森の中、清冽な水が流れる小川を渡りつつゆっくり植物を観察、「日本の冷温帯の植生は本来、こんな姿をしていたのだろうか」と話し合いながら散策しました。



いずれの森も自然や環境に関心のある方であれば、一度は訪ねるべきところだと改めて思いました。入域手続きなど、疑問があれば本ネット事務局まで気軽にご照会ください。

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動と今後の展望を紹介します。

今回は、農産物の販売と組合員の生産資材の購買を行っている紀ノ川農業協同組合のとりにくみを紹介いたします。

## "食"とゆったり向きあえる ふうの丘直売所

直売所の入口を入ると焼き芋の美味しい匂いがしてきます。焼き芋をフウフウさまし召し上がって下さい。という理由で「ふうの丘」ではありません。

正式には、ファーマーズマーケット・

紀ノ川「ふうの丘」といいます。



1995年1月から取り組んできた「日曜市」を発展させて、2001年6月30日に「ふうの丘」を開設し、大阪や奈良も含めた地域での地産地消にこだわり、消費者との心のかような交流の場、紀ノ川農協組合員の個性を発揮できる場、新しい担い手の育成の場になるようにと願い運営してきました。特に宣伝をすることもなく、案内の看板もありませんが、遠くから多くのお客様にお越し頂いています。

ふうの丘には、一般のお店にはあまり出回らない珍しい野菜や果物も時々登場します。お客様からは料理方法や食べ方の質問が寄せられます。売場担当スタッフは、たくさん買って行かれるお客様に聞いた料理方法や調べた料理レシピなどをお話したり、ポップに書いたりしてお伝えしています。これからは、桃やとうもろこしの季節になります。秋には柿やみかん、年明けには日高川町の川辺支所からたくさんの種類の柑橘類がお店に並びます。四季折々の野菜や果物を味わって頂けます。

直売所の入り口にはアイスクリームやコーヒー、おにぎりやうどんなども召し上がっていただけます。ゆっくり休憩して頂ければと「風車」を設けました。

このふうの丘直売所の屋根に、太陽光の共同発電所を設置しようと計画しています。有機農産物や特別栽培農産物などの利用を長期間契約していただくことで共同発電に参加して頂きます。農産物を出荷する時に、光センサーで選別したり、冷蔵庫で保管したり、電気フォークリフトで移動させたり、電気を使用します。計画ではふうの丘や選果場で必要な電気の約15%を太陽光発電で、間接的に賄うこととなります。同時に、環境保全型農業を支えて頂くことにもなります。地域の食料とエネルギーの自給率を高め地域の協同をさらに強めることをめざしたいと考えています。



## 市民の共同で「ふうの丘」に太陽光発電所を てんとうむしプロジェクト 事業説明会のご案内

紀ノ川農業協同組合とNPOわかやま環境ネットワークは、「てんとうむしプロジェクト」と称して、同組合の直売所である「ふうの丘」（紀の川市平野927）の屋根に、設備容量50kWのソーラーパネルからなる太陽光発電所（一般家庭16戸分の消費電力を供給できる規模）を設置する共同事業を計画しています。

事業説明会を開催いたしますので、関心をお持ちの方はお気軽にご参集くださいますよう、本書面をもちましてご案内申し上げます。

てんとうむし  
プロジェクト  
事業説明会

**日時** 2014年  
7月23日（水）19:00～

**場所** 和歌山市中央コミュニティセンター  
活動室

和歌山市三沢町1丁目2番地

主催：紀ノ川農業協同組合 わかやま環境ネットワーク

## 【ボランティアスタッフ】募集

わかやま環境ネットワークを支えていただける方を大々的に募集します。

ぜひ、お時間のあるときにお手伝いいただければ幸いです。

### お手伝いいただきたい内容

たとえば・・・

- ◆わかやま環境ネットワークの会員を増やす活動
- ◆郵送物の発送関係
- ◆イベント開催や出展時の会場フォローなどなど

今後メーリングリストを中心に具体的なお願いをしてみたいと思います。  
どうぞ、よろしく願いいたします。

## 事務局だより

お待ちせいたしました。長らくの間を経て32号、ようやく発行いたしました。今年度より専従2名体制となり、日々西へ東へ奔走しております。これまで、みなさまと一緒にあげてきた団体活動をさらに広げていけるよう努めていきます。ぜひ、みなさまのお力をお借りしたく

思います。なにぶん事務所が交通アクセスの良い所がない関係でウェルカムな場所となっていないのですが、夏の海を一望できる事務所をはじめ、イベントにもお手伝いに来ていただければとても嬉しいです。今後具体的なご案内をしていきたいと思

います。どうぞ、よろしく願いいたします。



ういねっと（わかやま環境ネットワーク通信）第32号（2014年7月17日発行）

発行：NPO わかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆

〒641-0014 和歌山県和歌山市毛見996-2 電話 (073)499-4734 FAX (073)499-4735

e-mail：wenet@vaw.ne.jp URL：http://wenet.info/